



令和5年度北海道旭川盲学校第1回学校運営協議会を7月6日(木)に開催しました。本校は今年度から学校運営協議会を設置することになりましたので、校長から学校運営協議会についての説明を行っています。その後、教頭から本校の教育活動についての説明を行ったのち、委員の方々と今後の学校運営協議会の在り方などについての意見交換を行いました。また、学校見学も行い本校の教育活動を委員の方々にいただきました。

コミュニティー・スクールをより良いものにしていくための意見をいただきました

コロナ禍だったこともあり、盲学校に限らず子どもたちの体力が低下している傾向が見られるので、体力向上に向けた取組を行う必要がある。視覚障害の子どもたちの運動環境の整備のみならず、職員研修など協力できることはしていきたいので要望をあげていただきたい。

盲学校の運動会や学習発表会などの行事を何度か見に来たことがある。これまでは行事を見るだけであったが、例えば町内会活動として行っているゴミ拾いなどを、盲学校の子どもたちと一緒にできると楽しいのではないかと感じた。

旭川市内には盲学校の卒業生で様々な分野で頑張っている人がいる。盲学校の子どもたちが、今後何か困ったことがあった場合には、相談できるようなサポート体制を作っていくことができるよう、本協議会とおしてできるようになっていくとよいのではないかと。

後援会としては、旭川盲学校の教育活動がよりよいものになっていくよう、また、子どもたちに色々な体験や経験ができるよう、資金的な面も含めてこれまで同様、支援をしていくので今後も何かあれば相談してもらいたい。

ICTの活用なども含めて、教育活動の充実が図られてきているが、最近は盲学校に限らず、対面で会話するなどの経験が少なくなっているため、ICTのより良い部分を取り入れながら、体験的な教育活動の充実を図るといいのではないかと。

旭川図書館では電子書籍サービスが始まったが、視覚障害の方に対応した窓口が整備されていない。今後は、盲学校の子どもたちが活用しやすいような環境整備や読みたいような本の要望などを検討していくことができればよいのではないかと。

旭川盲学校は子どもたちに対して本当に手厚い支援があり、また、素晴らしい取り組みを行っているため、これまでの取り組みを大切にしながらも、コミュニティー・スクールを活用し、新しいものを取り入れた学校づくりをしてもらいたい。

<校長から>

- ・コミュニティー・スクールは設置して成果が出るまで3~5年かかると言われている。旭川盲学校のコミュニティー・スクールがより良いものになるよう委員の皆様と熟議を行って行きたい。
- ・昨年度の学校評議員会での意見を踏まえて、教職員の特技や自己PRをまとめたものを見ていただいた。今後、委員の方々と連携を深めていくため、委員の方々の特技やどのようなことを一緒にできるかなどを教職員に提示することができればと思うのでその際は協力いただきたい。
- ・本校教職員からは、地域の方々と公園などの環境整備やゴミ拾いなどを一緒にできたら、防災訓練を地域の方と一緒にできないか、後援会の企業の方と一緒に駐車場のライン引きなどではないかと、給食の試食会を行い地域の方と一緒に給食を食べてはどうかなどの意見があった。
- ・本協議会をとおして、学校・家庭・地域と一体となってより良い教育活動を進めていきたいと考えているので、今後とも協力をお願いしたい。

※本校では、長年にわたりPTA活動の様子を伝えるためのPTA広報誌「きれんじゃく」を発行してきましたが、会員数の減少など様々な理由により、一昨年度をもってその役割を終えています。今後は、「きれんじゃく」の名称を学校運営協議会だよりとして後世に残していきたいと思っからタイトルとして採用しています。